

中学校知的障がい特別支援学級
キャリア教育充実のための

授業実践資料



令和 5 年 3 月
岩手県立総合教育センター
長期研修生
所属校 葛巻町立葛巻中学校
吉田 芽依子

はじめに

この授業実践資料は、「中学校特別支援学級における将来の自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実に関する研究」において、特別支援学級におけるキャリア教育の授業づくりの土台とするために作成したものです。

第1部は、特別支援教育への理解と知的障がいへの基本的な対応についての内容になっています。

第2部は、自校のキャリア教育の年間指導計画を踏まえ、反映させる手続きについて紹介しています。

第3部は、年度の初めに行う実態把握と個別のキャリア教育目標の設定の流れを説明しています。

第4部は、授業をつくる際の単元の構成や目標の設定の流れ、また、生徒の実態に応じた支援のポイントを示しています。

本授業実践資料を基に特別支援学級においてキャリア教育を実践し、生徒の将来の自立と社会参加に向けた指導・支援の充実が図られることをねらいとしています。また、本資料で示している資料や計画等は、全て「例」として作成したものです。キャリア教育の推進にあたっては、自校の実態に即して、本資料を参考資料としてご活用いただき、各学校らしさを活かした特色あるキャリア教育が展開されることを願っております。

目次

はじめに

第1部	特別支援教育への理解と知的障がいへの基本的な対応	1
1	「共生社会」の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築	1
(1)	特別支援教育の推進	
(2)	全ての教師に求められる特別支援教育に関する専門性	
2	特別支援学級におけるキャリア教育の現状と課題	2
3	知的障がいの特性	2
(1)	知的障がいとは	
(2)	知的障がいのある生徒の学習上の特性と対応の基本	
第2部	キャリア教育の年間指導計画を踏まえた特別支援学級の年間指導計画の作成	6
1	キャリア教育年間指導計画について	6
2	特別支援学級の年間指導計画について	7
第3部	実態把握と個別のキャリア教育目標の設定の流れ	8
1	生徒の実態把握	8
2	具体的な目標と育てたい力の設定	9
第4部	授業づくりの流れ	10
ステップ1	単元の目標と個別の「育てたい力」のつながりを捉える	11
ステップ2	単元を構想する	12
ステップ3	支援のポイントを考える	12
ステップ4	実践する	13
ステップ5	単元の学習を振り返る（評価）	14
資料1	「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」	
資料2	特別支援学級年間指導計画（例）	

第1部 特別支援教育への理解と知的障がいへの基本的な対応

1 「共生社会」の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築

「共生社会」について、中央教育審議会初等中等教育分科会から次のように示されています。

「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である。（中略）

共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念が重要であり、その構築のため、特別支援教育を着実に進めていく必要があると考える。

中央教育審議会初等中等教育分科会（H24）

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」より

（1）特別支援教育の推進

特別支援教育は、共生社会の形成に向けて、インクルーシブ教育システム構築のために必要不可欠なものである。（中略）特別支援教育を発展させていくことが必要である。このような形で特別支援教育を推進していくことは、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行うものであり、この観点から教育を進めていくことにより、障害のある子どもにも、障害があることが周囲から認識されていないものの学習上又は生活上の困難のある子どもにも、更にはすべての子どもにとっても、良い効果をもたらすことができるものと考えられる。

中央教育審議会初等中等教育分科会（H24）

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」より

インクルーシブ(inclusive)とは、すべてを含むという“包括的な”という意味をもっています。これまで推進されてきた特別支援教育のさらなる進展が、インクルーシブ教育システムの構築につながっていくことになると思います。

特別支援教育に関連して、障がいのある生徒と共に学び合い生活することを通して、障がい者理解を推進することにより、インクルーシブな社会の構築につながると考えます。

（2）全ての教師に求められる特別支援教育に関する専門性

『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』（文部科学省 中央教育審議会答申（2021））では、特別支援教育に学校全体で取り組むことが求められており、全ての教師に求められる専門性として下記のことが挙げられています。

- 障がいの特性に関する理解、指導方法を工夫できる力
- 特別支援に関する基礎的な知識（個別の教育支援計画、個別の指導計画等）
- 合理的配慮に対する理解
- 「社会モデル」*の考え方に基づいて本人の立場に立って困難さを捉え、必要な支援を一緒に考えていく経験や態度

*「社会モデル」：障がいのある方が日常生活又は社会生活において受ける制限は障がいにより起因するものだけでなく、社会における様々な障壁と相対することによって生ずるものという考え方。

2 特別支援学級におけるキャリア教育の現状と課題

キャリア教育に関する調査（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター(2021)『キャリア教育に関する総合的研究第二次報告書』）によると「取組の目標や方法、育てたい力などについて、教員間や校務分掌間で共通理解を図ること」が課題として挙げられ、「キャリア教育を実践するための体制や方法に関する具体的な計画が不足している」と指摘されています。さらに、知的障がいのある生徒については、学習上の特性を踏まえた段階的な指導が必要であり、キャリア教育においても、個々の生徒のキャリア発達に応じた具体的な目標や支援の手立てを考える必要があります。

特別支援学級のキャリア教育の充実を図るため、キャリア教育の年間指導計画と特別支援学級の年間指導計画の関連を整理し、育てたい力を共通理解していくことが必要であると考えます。

ここでは、キャリア発達を促す取組の目的や方法、育てたい力を明確にした授業実践資料を作成し、これに基づいた授業実践を行うこと通して、特別支援学級のキャリア教育の指導の一例を示すこととします。

3 知的障がいの特性

（1）知的障がいとは

「障害のある子供の教育支援の手引」（文部科学省（2021））によると、知的障がいとは「知的機能の発達に明らかな遅れ」と「適応行動の困難性を伴う状態」が発達期に起こる障がいのことをいいます。

「知的機能の発達に明らかな遅れ」

- ・・・「認知や言語などにかかわる精神機能のうち、情緒面とは区別される知的面に、同年齢の児童生徒と比較して平均的水準より明らかな遅れがある状態」「社会生活への適応が困難」

「社会生活への適応が困難」

- ・・・「他人との意思疎通、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについて、その年齢段階に標準的に要求されるまでには至っていないこと」「適応行動の習得や習熟に困難があるために、実際の生活において支障をきたしている状態」

（2）知的障がいのある生徒の学習上の特性と対応の基本（例）

ア 知的障がいのある生徒の学習上の特性

- 学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面の中で生かすことが難しい。
- 成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことが多い。

イ 教育的対応の基本

『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』に示されている、知的障がいのある児童生徒への教育的対応の基本です。どの場面、どの教科でもこの対応の基本をもってあたることが求められています。

- ① 児童生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等を考慮して教育的ニーズを的確に捉え、育成を目指す資質・能力を明確にし、指導目標を設定するとともに、指導内容のより一層の具体化を図る。
- ② 望ましい社会参加を目指し、日常生活や社会生活に生きて働く知識及び技能、習慣や学びに向かう力が身につくよう指導する。
- ③ 職業教育を重視し、将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能、態度及び人間性が育つよう指導する。その際に、多様な進路や将来の生活について関わりのある指導内容を組織する。
- ④ 生活の課題に沿った多様な生活経験を通して、日々の生活の質が高まるよう指導するとともに、よりよく生活していこうとする意欲が育つよう指導する。
- ⑤ 自発的な活動を大切にし、主体的な活動を促すようにしながら、課題を解決しようとする思考力、判断力、表現力を育むよう指導する。
- ⑥ 児童生徒が、自ら見通しをもって主体的に行動できるよう、日課や学習環境などを分かりやすくし、規則的でまとまりのある学校生活を送れるようにする。
- ⑦ 生活に結びついた具体的な活動を学習の中心に据え、実際の状況下で指導するとともに、できる限り児童生徒の成功経験を豊富にする。
- ⑧ 児童生徒の興味や関心、得意な面に着目し、教材・教具、補助用具やジグ等を工夫するとともに、目的が達成しやすいように、段階的な指導を行うなどして、児童生徒の学習への意欲が育つよう指導する。
- ⑨ 児童生徒一人一人が集団において役割が得られるよう工夫し、その活動を遂行できるようにするとともに、活動後には充実感や達成感、自己肯定感が得られるように指導する。
- ⑩ 児童生徒一人一人の発達の側面に着目し、意欲や意思、情緒の不安定さなどの課題に応じるとともに、児童生徒の生活年齢に即した指導を徹底する。

ウ 合理的配慮を含む必要な支援

生徒と関わり、授業をつくる上で、学習上の特性と対応を押さえた上で、生徒の実態に応じた合理的な配慮*を含んだ生徒一人一人に必要な支援を検討する必要があります。「障害のある子供の教育支援の手引」（文部科学省（2021））の下記のポイントを押さえ、必要な支援を考える際の参考にいただければと思います。

知的障害のある子供の教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容

知的障害のある当該の子供に必要な合理的配慮を行ったり、必要な支援内容を提供したりすることで、学習への参加や学習内容の理解などが可能となるようにする必要があります。

よって、知的障害のある子供の教育に当たっては、次の点から教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容を検討する必要があります。

ア 教育内容・方法

(ア) 教育内容

a 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

できるだけ実生活につながる技術や態度を身に付けられるようにするとともに、社会生活上の規範やルールの理解を促すよう配慮する。

b 学習内容の変更・調整

知的発達の遅れにより、一般的に学習内容の習得が困難な場合があることから、理解の状況に応じた学習内容の変更・調整を行う（焦点化を図ること、基礎的・基本的な学習内容を重視すること、生活上必要な言葉等の意味を確実に理解できるようにすること等）。

(イ) 教育方法

a 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

知的発達の遅れに応じた分かりやすい指示や教材・教具を提供する（文字の拡大や読み仮名の付加、話し方の工夫、文の長さの調整、具体的な用語の使用、動作化や視覚化の活用、数量等の理解を促すための絵カードや文字カード、数え棒、パソコンの活用等）。

b 学習機会や体験の確保

知的発達の遅れにより、実際的な生活に役立つ技術や態度の習得が困難であることから、調理実習や宿泊学習等の具体的な活動場面において、家庭においても生かすことのできる力が向上するように指導するとともに、学習活動が円滑に進むように、図や写真を活用した日課表や活動予定表等を活用し、自主的に判断し見通しをもって活動できるようにする。

c 心理面・健康面の配慮

知的発達の遅れにより、友人関係を十分には形成できないことや、年齢が高まるにつれて友人関係の維持が困難になることもあることから、学級集団の一員として所属意識がもてるように学級全体で取り組む活動を工夫するとともに、自尊感情や自己肯定感、ストレス等の状態を踏まえた適切な対応を図る。

* 合理的配慮：「障害者の権利に関する条約」第2条において、合理的配慮とは、「障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享受し、または行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を逸したまたは過度の負担を課さないものをいう」とされている。

Ⅰ 交流および共同学習の学びの場の検討

中学校学習指導要領総則解説編において、特別支援学級と交流学級の子供が共に学ぶ活動の充実について述べています。

障害者基本法第 16 条第 3 項にも規定するとおり、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習は、生徒が障害のある幼児児童生徒とその教育に対する正しい理解と認識を深めるための絶好の機会であり、同じ社会に生きる人間として、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ場でもあると考えられる。（中略）

また、特別支援学級の生徒との交流及び共同学習は、日常の様々な場面で活動を共にすることが可能であり、双方の生徒の教育的ニーズを十分把握し、校内の協力体制を構築し、効果的な活動を設定することなどが大切である。

第2部 キャリア教育の年間指導計画を踏まえた特別支援学級の年間指導計画の作成

1 キャリア教育年間指導計画

キャリア教育年間指導計画と特別支援学級の年間指導計画の関連を整理するために、行事や単元等の活動で生徒に育てたい力を基礎的・汎用的能力の4能力と対応させます。

キャリア教育年間指導計画 第1学年(例) 一部抜粋

教科	月	4月	5月	6月	7月	8, 9月	10月	3月
各教科		【理科】私たちがつながる科学 「ある中学生の一日を見てみると」 【英語】Steps1 英語でやりとりしよう①	【理科】単元1 いろいろな生物とその共通点 fromJapan世界につながる科学「動物園から世界が見えてくる」 【英語】Our Project1 あなたの知らない私 【体育】 運動やスポーツの多様性	【国語】新しい視点で大根は大きな根？ ちよつと立ち止まって 【音楽】深めよう！音楽 曲の構成	【国語】情報社会を生きる 情報を集めよう 情報を読み取ろう 情報を引用しよう 【理科】単元2 身のまわりの物質 fromJapan世界につながる科学「薬は結晶が命！」	【社会】地理的分野 世界の諸地域 【地域から世界を考えたよ】 国境を越えて移動する人々	【社会】地理的分野 世界の諸地域 【学習のまとめと表現】 カレーからみた食文化 【英語】Steps2 英語でやりとりしよう② 【技術】生活や社会と生物育成の技術	【英語】Steps3 英語でやりとりしよう③
	学校行事	入学式 対面式	体育祭 人自	中総体	校外学習 人課キ	防災復興学習 課 生徒会役員改選 地区新人大会	地区中文祭 小中連携〇〇会 人 文化祭 人自	3.11集会 課 卒業式
特別活動		中学校1年生の見通し を持つ 人 体育祭に向けて 人	中学校生活の見通しを持つ 課 キ 期末テストに向けて 学ぶ理由 課	いろいろな職業 働く理由 課 キ	地域に生きる 人	自分を見つめてみよう 自 将来の生き方について考 えよう 課	人とながる 人 文化祭に向けて 人	この1年を振り返ろう 課
キャリア・パスポートの活用(日常の教育活動と関連付けて)								
総合的な学習の時間		オリエンテーション 課 キ	自治活動 体育祭 人自	キャリア学習 高校について学ぶ会 課 キ	キャリア学習 校外学習 人課 キ	防災復興学習 課	郷土を知る神楽 人 自治活動 文化祭 人	防災復興学習 課
道徳				トマトとメロン (個性の伸長) 人			震災を乗り越えて 一復活した郷土芸能 (郷土の伝統と文化の尊重) 人	

	4能力
人	人間関係形成・社会形成能力 他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ など
自	自己理解・自己管理能力 自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動など
課	課題対応能力 情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追及、課題発見、計画立案、実行力、評価、改善 など
キ	キャリアプランニング能力 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善 など

2 特別支援学級の年間指導計画について

特別支援学級では、教科別の指導の他に、各教科等を合わせた指導（「生活単元学習」や「作業学習」など）を行うことができるとされています。また、障がいによる学習上、または生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れることが示されています。これら特別支援学級で行われている学習と、キャリア教育との関連を整理することで、行事や特別活動等で、特別支援学級として生徒に育てたい力を明確にすることができ、一年間のキャリア教育の見通しを持つことができます。

特別支援学級 年間指導計画 第1学年（例）

岩手県立総合教育センター『特別支援学級経営の手引』p.34 を参考に筆者が例として作成

月		4	5	6	7	3
各教科等を合わせた指導	生活単元学習	・中学校生活に慣れよう ・花を育てよう	・体育祭に向けて ・体育祭を振り返って ・稲の栽培 ・花を育てよう	・植物栽培サニーレタスと花を育てよう	・校外学習に向けて ・校外学習を振り返って	・部活の先輩に感謝を伝えよう
	作業学習	・発泡スチロール作品の作り方を知ろう	・みんなの名札を作ろう		・名札を完成させてプレゼントしよう	・カリグラフィーで感謝を伝えるメッセージボードを完成させよう
教科別の指導	国語	・朝のリレー ・国語辞典の使い方	・野原はうたう ・漢字に親しもう	・シンジュン ・ダイコンは大きな根？	・ちょっと立ち止まって ・読書を楽しむ	・少年の日の思い出 ・さくらはなびら
	社会	・地理的分野 ・世界の地域構成 ・日本の地域構成	・歴史的分野 ・歴史のとらえ方 ・身近な地域の歴史	・原始・古代の日本と世界	・原始・古代の日本と世界	・近世の日本と世界 ・天下統一への歩み ・一年間のまとめ
	数学	・整数、正負の数 ・分数、少数	・加法、減法 ・時刻と時間	・乗法 ・重さの単位	・除法 ・金銭処理	
特別の教科 道徳	・サッカーの漫画を描きたい	・「愛情貯金」をはじめませんか	・「マトとメロン」 ・ばあば	・富士山から変えていく	・いつものハイオリン	
総合的な学習の時間	・オリエンテーション	・自治活動 ・体育祭	・キャリア学習 ・高校について学ぶ会	・キャリア学習 ・校外学習	・防災復興学習	
特別活動	・中学校1年生の見通しをもとう ・体育祭に向けて	・中学校生活の見通しをもとう ・期末テストに向けて	・いろいろな職業 ・働く理由	・地域に生きる	・この一年を振り返ろう	
自立活動	・中学校生活に慣れよう	・制服をたたもう	・自分新聞を作ろう	・挨拶マスターになろう	・一年間の振り返りをしよう	
育てたい力	特別活動 人 人との関わり 場に応じた言動	体育祭（総合） 人 集団参加 協力・共同 自 自己理解	特別活動 課 目標設定 振り返り 肯定的な自己評価	校外学習（総合） 人 人との関わり、集団参加、意思表示 感謝、あいさつ 課 目標設定 振り返り 肯定的な自己評価 キ 情報の収集と活用 働くことの意義 夢や希望 特別活動	3.11集会（総合） 課 選択（決定・責任） 特別活動 課 目標設定 振り返り 肯定的な自己評価 課 総合的な学習の時間 課	
	総合的な学習の時間 キ 生きがい・やりがい					
人…人間関係・社会形成能力 自…自己理解・自己管理能力 課…課題対応力 キ…キャリアプランニング能力						

実態把握で用いた、「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」（資料1）の「育てたい力」から抽出します。

第3部 実態把握と個別のキャリア教育目標の設定の流れ

1 生徒の実態把握

「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」(資料1)の活用

「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」とは・・・

- 知的障がいの特別支援学級在籍児童生徒の、キャリア発達段階を把握するための評価票。
- 個の生徒のキャリア発達を捉えることができる。
- 「職業及び生活に関わるスキル」について、小学校段階と中学校段階で把握できる。
- キャリア発達を表の形式で捉えることによって、「育てたい力」を把握しやすい。
- キャリア発達の変化を捉えることができる。
- 次の段階へ伸ばすための手立てを考えることができる。

それぞれの項目において、生徒のキャリア発達がどの段階にあるか把握する。

- ・学年や生活年齢にとらわれずに生徒のキャリア発達を捉えましょう。
- ・日常的に対象生徒と関わる先生方と共に作成するとよいでしょう。

生徒の実態を教職員で共通理解する。

- ・生徒と関わっている先生方と共通理解することで、組織的な指導につなげましょう。

これから手順を案内します。
□を順にチェックしていきましょう。



実態把握の例

「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」一部抜粋

キャリア発達段階 職業(職務)発達にかかわる諸能力	小学校				中学校		
	育てたい力 領域にかかわるスキル	段階		育てたい力	段階		
		1	2		1	2	3
人 多様な他者の考えや立場を	人とのかかわり(自分の良さ)	名前を呼んでいる人の名を見たり、体を動か	名前を呼ばれて返事をするができる	人とのかかわり	言葉かけや呼名で大きくはっきり返事をする	指示を受けたときに適切な返事をする	指示を受けたときに適切な返事をする
自己理解・自己管理能力	自分が「できること」「意義を感じる」「したいこと」について、社会と相互関係を築く。今後の自分の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に自らの意思や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする	自分の名前、住所、所有物が分かる	自分の好きなことや嫌いなことがわかる	自己理解	自分のできることが分かる	自分の長所が分かる	自分の性格、趣味、適性、短所などが分かる 自分の生い立ちをふりかえり、知る 他の個性を知る(自分と友達の違い)
キャリアプランニングの能力	「働くこと」の意義を理解し、自分が果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択しながら、自ら主体的に主体的に短期指定キャリアを形成していく力	役割の理解と分担	学級・学年・異年齢集団等、人数や年齢層が異なる集団に参加し、友達と一緒に活動したり作業をしたりすることができる	働くことの意味	進路学習を通して卒業後は仕事をすることを理解する	学校での進路に関する学習に進んで取り組むことができる	自分の進路に関心をもつことができる
	習慣形成	教師の働きかけによって次に得をするのかが分かり、目標に沿って行動することができる	日常生活でのおおよその予定が分かり、見過しをわめて行動することができる	習慣形成	基本的な生活習慣(規則正しい生活・時間管理・休む・健康・清潔等)を身に付けることができる	基本的な生活習慣(規則正しい生活・時間管理・休む・健康・清潔等)を身に付けることができる	一週間の予定が分かり、カレンダーや予定表を見て学校行事や家庭の予定等に従って行動することができる
	夢や希望	教師と一緒に様々な活動を行い、好きなことや好きなものを見つけている	様々な活動を体験し、自分がしたいことを選ぶことができる	夢や希望	様々な仕事に関心を持つことができる	自分の得意なことをふまえて、将来就きたい仕事を考えることができる	様々な活動に意欲を持って取り組むことができる
	生きがい・やりがい	自分が好きな活動を選んで取り組むことができる	自分が好きな活動を選び、進んで取り組むことができる	生きがい・やりがい	好きな活動をつづかずに他の活動にも目を向け、意欲を持って取り組むことができる	特別支援学校高等部や福祉施設での見学・体験をとおして、様々な職業があることが分かる	学校卒業後の将来を見据え(それにつながる)中学校卒業後の進路を決定できる

・現在の実態を □ と捉えます。例えば「自己理解」については、小学校の2の段階としました。

・矢印の先へ力を育むことを目指します。

・適宜、この評価票を基に評価することで、キャリア発達の変化を捉えることができます。

2 具体的な目標と育てたい力の設定

「個別のキャリア教育年間指導計画」の作成

特別支援学級のキャリア教育年間指導計画にある行事や単元等において設定した育てたい力と対象生徒の育てたい力を照らし合わせて、「個別のキャリア教育年間指導計画」としてまとめます。

「個別のキャリア教育年間指導計画」作成の流れ



- ①個別の「育てたい力」の決定 一個の生徒に応じて—
単元で重点的に育てたい力を◎、育てることが可能な力を○とします。
対象生徒のキャリア発達段階や、今年度重点的に「育てたい力」に応じて、決定します。
- ②指導の工夫、他教科との関連を作成
重点的に育てたい力◎を育むために、指導の工夫を検討し記載します。他教科との関連を確認し、系統的な指導につなげましょう。

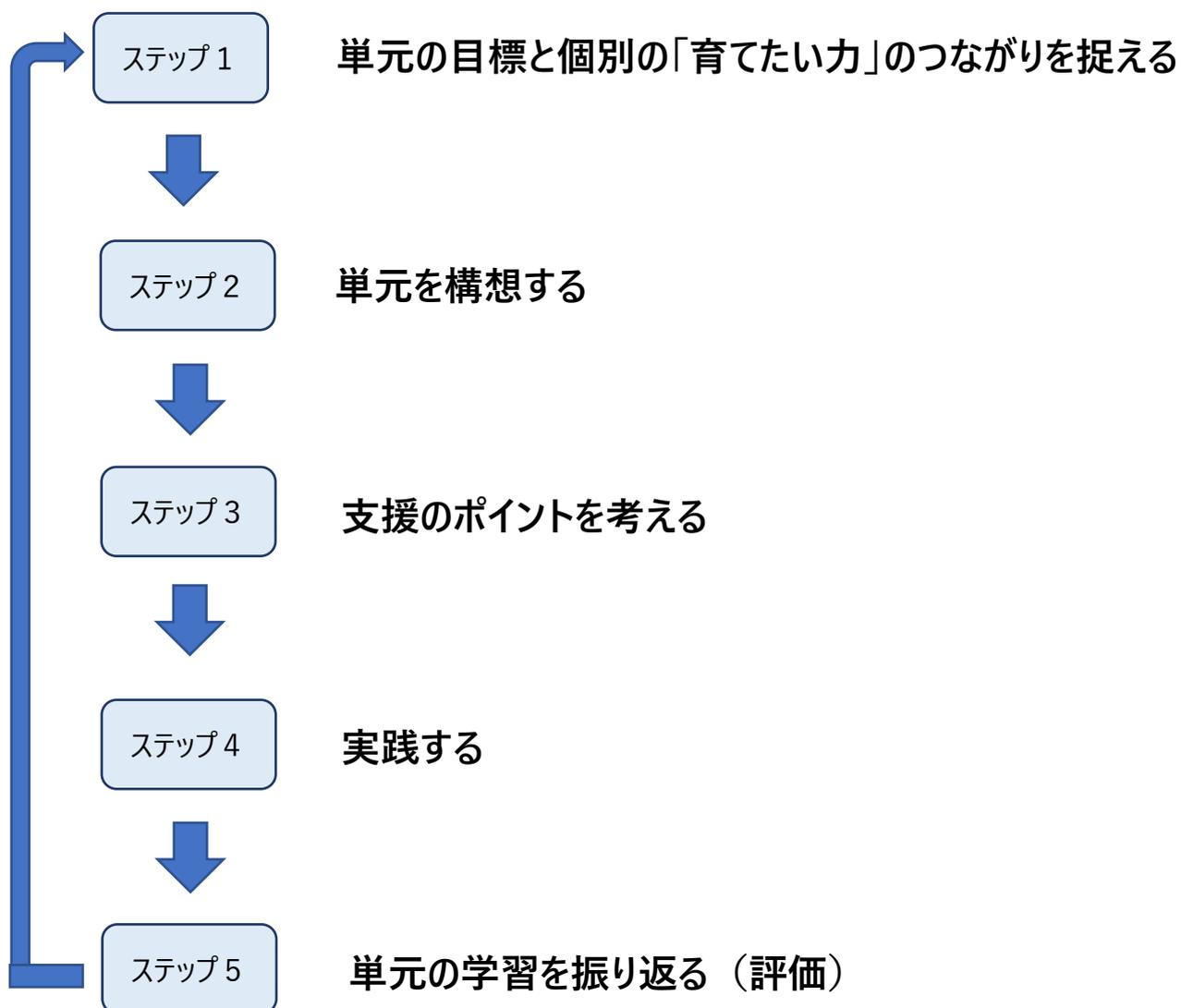
「個別のキャリア教育年間指導計画（例）」（一部抜粋）

時期	教科等	人間関係形成・社会形成能力				自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力						指導の工夫例					
		人とのかかわり (反応)	他者理解	協力・共同	意思表現	場に応じた言動	自己理解	ストレスマネジメント	目標設定 (決定・責任)	選択	自己理解 肯定的な活用	情報の収集と活用	社会の決まり		金銭の管理	働くことの意義	習慣形成	夢や希望	やりがい・生きがい
4月	特別活動 中学校1年生の見通しを持つとう 自立活動 中学校生活に慣れよう									◎									中学校生活の一日の流れを確認し、自分の役割などの確認を行う。教師と一緒に身近な目標を設定し振り返る機会を設ける。 (目標設定)
5月	生活単元学習 体育祭に向けて 体育祭を振り返って			◎						○	○	○							体育祭で行う競技や係の役割などを確認し、自分の行動をイメージできるようにする。(協力・共同) 振り返りでは自己肯定感につながるような振り返りを行うとともに、次の体験学習で深まる課題や、来年の体育祭での自分の姿を想像できるように行う。(肯定的な自己理解)
6月	特別活動 いろいろな職業 自立活動 自分新聞を作ろう							◎				○							自分について新聞にまとめることで、自己を見つめ、それを用いて教師や級友と交流が持てるように活用する。(自己理解)
7月	総合 校外学習 生活単元学習 校外学習に向けて 校外学習を振り返って	◎										○	○	○	◎				校外学習へ向けて、班での係のなかでの自分の役割の理解と協力の仕方を練習する。(他者理解・協力・共同) 振り返りたいことの個人目標を設定し、振り返る。 (目標設定)
8・9月	特別活動 自分を見つめてみよう 将来の自分について考えよう							◎								◎			自分の好きなことや性格、行動面について考え、他者の考えを聞くことを通して自分について考えることができるよう行う。(自己理解) 進路について学ぶことを通して、将来の生き方について考え、それに向けて今頑張ることを考えることができるよう行う。(進路計画)
3月	自立活動 1年間の振り返りをしよう							◎											自分の行動やそのときの気持ちを振り返ることで、自己理解を深めることにつなげたい。(意思表現・自己理解)

単元で重点的に育てたい力…◎ 育てることが可能な力…○

第4部 授業づくりの流れ

第3部での実態把握と具体的な目標と育てたい力を設定し、以下のようなステップで授業づくりを進めます。



ステップ1

単元の目標と個別の「育てたい力」のつながりを捉える

□ 単元の目標と個別の「育てたい力」のつながりを捉える。
 (「個別のキャリア教育年間指導計画」と「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」を参考にしましょう。)



例

「個別のキャリア教育年間指導計画」の4月の特別活動を例にとると、課題対応能力の「目標設定」の部分を育てたい力として設定しました。

「個別のキャリア教育年間指導計画(例)」⁽⁸⁾ (一部抜粋)

時期	教科等	人間関係形成・社会形成能力		自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力					指導の工夫例	
		人とのかかわり (反応)	他者理解 協力・共同 意思表現	場に応じた言動	自己理解 メンタル マネジメント	目標設定 (決定・責任 選択)	肯定的な 自己理解	情報の収集と 活用	社会の決まり	働くことの意義 金銭の管理		働くことの意味 習慣形成 夢や希望 やりがい・ 生きがい
4月	特別活動 中学校1年生の見通しを持つ 自立活動 中学校生活に慣れよう				◎							中学校生活の一日の流れを確認し、自分の役割などの確認を行う。教師と一緒に身近な目標を設定し振り返る機会を設ける。(目標設定)
5月	生活単元学習 体育祭に向けて 体育祭を振り返って		◎		○ ○ ○							体育祭で行う競技や係の役割などを確認し、自分の行動をイメージできるようにする。(協力・共同) 振り返りでは自己肯定感につながるような振り返りを行うとともに、次の体験学習で頑張る課題や、来年の体育祭での自分の姿を想像できるように行う。(肯定的な自己理解)
6月	特別活動 いろいろな職業 自立活動 自分新聞を作ろう			◎		○						自分について新聞にまとめることで、自己を見つめ、それを用いて教師や級友と交流が持てるように活用する。(自己理解)
7月	総合 校外学習 生活単元学習 校外学習に向けて 校外学習を振り返って	◎						○ ○ ○ ○				校外学習へ向けて、班での係のなかでの自分の役割の理解と協力の仕方を練習する。(他者理解・協力・共同) 頑張りたいことの個人目標を設定し、振り返る。(目標設定)
8・9月	特別活動 自分を見つめてみよう 将来の自分について考えよう			◎						◎		自分の好きなことや性格、行動面について考え、他者の考えを聞くことを通じて自分について考えることができるよう行う。(自己理解) 進路について学ぶことを通じて、将来の生き方について考え、それらにむけて今頑張ることを考えることができるよう行う。(進路計画)
3月	自立活動 1年間の振り返りをしよう			◎		◎						自分の行動やそのときの気持ちを振り返ることで、自己理解を深めることにつなげたい。(意思表現・自己理解)

単元や内容で中心的に育てる力…◎ 副次的に扱うことが可能な力…○

特別活動 「中学校1年生の見通しを持つ」

単元の目標

- (1) 1年の学校生活の見通しを持つことができる。
- (2) 達成可能で身近な目標を立てることができる。
- (3) 学校生活への意欲を高めることができる。

「育てたい力」とのつながりを捉えましょう。

〔知識及び技能〕

〔思考力、判断力、表現力等〕

〔学びに向かう力、人間性等〕

ステップ2 単元を構想する

- 生徒観、教材観、指導観を基に単元計画を立てる。



ステップ3 支援のポイントを考える

中学校学習指導要領解説 特別活動編においては、「障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。」と示されています。これらを踏まえ、個々の生徒によって、見えにくさ、聞こえにくさ、道具の操作の困難や移動上の制約、健康面や安全面での制約、発音のしにくさ、心理的な安定、人間関係形成の困難さ、読み書きや計算等の困難さ、注意の集中を持続することが苦手など、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、個々の生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫することが重要です。

支援のポイントを考える際の流れ

目標を達成するために……

学習の過程で考えられる

- 【① 困難の状態】を具体化する。
- 【② 指導上の工夫の意図】を考える。
- 【③ 手立て】を考える。



「障がいのある生徒の学習活動の困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫について」から

- 例1
- ① 相手の気持ちを察したり理解することが苦手な生徒には、
 - ② 他者の心情等を理解しやすいように、
 - ③ 役割を交代して相手の気持ちを考えたり、理解しやすい場面に置き換えることや、イラスト等を活用して視覚的に表したりする指導を取り入れる。
- 例2
- ① 話を最後まで聞いて答えることが苦手な場合には、
 - ② 発言するタイミングが理解できるように、
 - ③ 事前に発言や質問する際のタイミングなどについて具体的に伝えるなど、コミュニケーションの図り方についての指導をする。
- 例3
- ① 学校行事における避難訓練等の参加に対し、強い不安を抱いたり戸惑ったりする場合には、
 - ② 見通しがもてるよう、
 - ③ 各活動や学校行事のねらいや活動の内容、役割（得意なこと）の分担などについて、視覚化したり、理解しやすい方法を用いたりして事前指導を行うとともに、周囲の生徒に協力を依頼しておく。

□ 指導内容を踏まえ、学びの場を検討する。



生徒のキャリア発達の実態や学習内容に応じて、指導内容を考えます。単元の中で、交流学級での学習「交流及び共同学習」を行う場合は、交流学級の担任と一緒に計画するとよいでしょう。

例 生徒の実態と学習内容を考え、単元の目標の達成に必要な場合は、交流及び共同学習を計画する場合があります。その際、授業実践資料の、知的障がいのある生徒に対する「合理的配慮を含む必要な支援」を参考に、交流及び共同学習における学びの場を検討します。特別支援学級で行われる学習を、その内容によって以下のパターンに分類してみました。生徒の実態や学習の内容を踏まえて、交流及び共同学習を考える際の例としてお示しします。

ア 予習型

交流学級での学習の内容として、意見交流や発表場面が想定されている場合など、事前に発表原稿を考えたり、自分の意見や考えを用意したりするための時間。

例…体験学習の事前学習、事後学習（交流学級で発表する場合）など

イ 復習型

交流学級での学習の時間では、目標の達成や作品の完成までに至らないと想定される場合など、学習内容の復習や、作品の完成を目指す時間。

例…体験学習の事後学習（ポートフォリオの作成）など

ウ 定着重視型

交流学級での学習内容から精選し、その定着を図るための時間。

例…テキストやワークシートを用いた学習の場面など

エ 個別内容型

対象生徒の実態に応じて、必要と思われる学習内容等に応じて対応する時間。

例…進路に関して（上級学校の見学）など

ステップ4

実践する

- 各時間の目標や内容が適切か振り返りながら進める。
- 支援の手立ては適切か振り返り、改善しながら進める。



ステップ5

単元を振り返る

- 生徒が自己評価する場面を設定する。
- 学習したことを実際の生活場面に活かす機会を検討する。



例 この例では、キャリア発達の目標とした「目標設定」に関する力を単元を通して育てたい力とし、目標を設定しました。この目標について振り返りましょう。達成できていればその力を活かす機会を検討していきます。目標が達成できていなければ、次にその育てたい力に関連する単元を「個別のキャリア教育年間指導計画」から選び、その単元について目標から設定します。

時期	教科等	人間関係形成・社会形成能力			自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力					指導の工夫例						
		人とのかかわり (反応)	他者理解	協力・共同	意思表現	場に応じた言動	自己理解	メンタリズム	目標設定 (決定・責任)	肯定的な自己理解 選択	情報の収集と活用		社会の決まり	金銭の管理	働くことの意義	習慣形成	夢や希望	生きがい・やりがい
4月	特別活動 中学校1年生の見通しを持つ 自立活動 中学校生活に慣れよう							◎										中学校生活の一日の流れを確認し、自分の役割などの確認を行う。教師と一緒に身近な目標を設定し振り返る機会を設ける。 (目標設定)
5月	生活単元学習 体育祭に向けて 体育祭を振り返って			◎				○										体育祭で行う競技や係の役割などを確認し、自分の行動をイメージできるようにする。(協力・共同) 振り返りでは自己肯定感につながる振り返りを行うとともに、次の体験学習で頑張る課題や、来年の体育祭での自分の姿を想像できるように行う。(肯定的な自己理解)
6月	特別活動 いろいろな職業 自立活動 自分新聞を作ろう					◎			○									自分について新聞にまとめることで、自己を見つめ、それを用いて教師や級友と交流が持てるように活用する。(自己理解)
7月	総合 校外学習 生活単元学習 校外学習に向けて 校外学習を振り返って			◎							○ ○ ○ ○							校外学習へ向けて、班での係のなかでの自分の役割の理解と協力の仕方を練習する。(他者理解・協力・共同) 頑張りたいこの個人目標を設定し、振り返る。 (目標設定)
8・9月	特別活動 自分を見つめてみよう 将来の自分について考えよう					◎										◎		自分の好きなことや性格、行動面について考え、他者の考えを聞くことを通じて自分について考えることができるよう行う。(自己理解) 進路について学ぶことを通じて、将来の生き方について考え、それにむけて今頑張ることを考えることができるよう行う。(進路計画)
3月	自立活動 1年間の振り返りをしよう					◎			◎									自分の行動やそのときの気持ちを振り返ることで、自己理解を深めることにつなげた。 (意思表現・自己理解)

単元を通して育てたい力

－事前準備－ 生徒の実態把握

- それぞれの項目において、生徒のキャリア発達がどの段階にあるか把握する。
- 生徒の実態を教職員で共通理解する。

－事前準備－ 「個別のキャリア教育年間指導計画」

- 個別の「育てたい力」の決定 一個の生徒に応じて－
- 指導の工夫、他教科との関連を作成

ステップ1

単元の目標と個別の「育てたい力」のつながりを捉える

- 単元の目標と個別の「育てたい力」のつながりを捉える。
 （「個別のキャリア教育年間指導計画」と「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」を参考にしましょう。）

ステップ2

単元を構想する

- 生徒観、教材観、指導観を基に単元計画を立てる。

ステップ3

支援のポイントを考える

学習の過程で考えられる

- 【① 困難の状態】を具体化する。
- 【② 指導上の工夫の意図】を考える。
- 【③ 手立て】を考える。
- 指導内容を踏まえ、学びの場を検討する。

ステップ4

実践する

- 各時間の目標や内容が適切か振り返りながら進める。
- 支援の手立ては適切か振り返り、改善しながら進める。

ステップ5

単元の学習を振り返る（評価）

- 生徒が自己評価する場面を設定する。
- 学習したことを実際の生活場面に活かす機会を検討する。

事前準備から授業づくりの流れをまとめました。



資料1 特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票

		小学校				中学校						
キャリア発達段階		職業及び生活にかかわる基礎的なスキル獲得の時期				職業及び生活にかかわる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期						
職業的(進路)発達にかかわる諸能力	領域	育てたい力	段階				育てたい力	段階				
			1		2			1	2	3		
人間関係形成・社会形成能力	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる。自分の置かれている状況を受けとめ、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参加し、今後の社会を積極的に形成することができる。	人とのかかわり(反応)	名前を呼んでいる人の方を見たり、体を動かしたりして反応する		名前を呼ばれて返事をする事ができる		人とのかかわり(反応)	言葉かけや呼名で大きくはつきり返事をすることができる		指示を受けたときに適切な返事をする事ができる		
		人とのかかわり(他者のよさ)	相手を見たり、身体接触をしたり、真似をしたりしながら、相手を意識することができる	相手を誘ったり、遊ぶ約束をしたりして、他者とかわらうとすることができる	他者のよいところに気づくことができる	他者理解	相手の気持ちを考えることができる		相手の気持ちを考えて行動することができる			
		集団参加	相手の顔を見たり、身体接触をして受け入れたりしながら、集団の中で過ごすことができる	相手の真似をしたり、手伝ってもらったりしながら友達と一緒に活動できる	相手のアドバイスを聞いたり、自分の考えを提案したりしながら、周囲の人とかかわって活動できる	協力・共同	友達と協力して活動できる	集団の一員としての役割を理解し、協力して活動できる	集団の中で意見を聞いて、自分の意見を言うことができる			
		意思表示	「はい」「いいえ」「できない」「分からない」等の自分の意思表示ができる	困難を取り除くために、できないときに助けを求めたり、要求したりすることができる	困難を取り除くために、自分の感情を伝えたり、説明したりできる	意思表示	「おわかりました」「できました」等の報告ができる	相手の意見を聞いて、自分の意見を言うことができる	集団の中で意見を聞いて、自分の意見を言うことができる			
		あいさつ、清潔、身だしなみ	教師や保護者等と一緒にあいさつをしたり、身だしなみを整えたりできる	教師や保護者等から促されたおりにあいさつをしたり、身だしなみを整えたりできる	時間帯に応じたあいさつをしたり、自分から身だしなみを整えたりできる	場に応じた言動	自分で判断し、場に応じた挨拶や身だしなみができる	様々な場面で、自分で判断し、場に応じた挨拶や身だしなみができる	様々な場面で、目的に応じた行動ができる			
		自己理解・自己管理能力	自分が「できること」「意義を感じる」「したいこと」について、社会と相互関係を保ちつつ、今後の自分の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に自らの意思や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする	人とのかかわり(自分の良さ)	自分の名前、住所、所有物が分かる	自分の好きなことや嫌いなことがわかる	自己理解	自分のできることが分かる	自分の長所が分かる	自分の性格、趣味、適性、短所などが分かる 自分の生い立ちをふりかえる、知る 他の個性を知る(自分と友達の違い)		
課題対応能力	目標設定	目標を教師と一緒に決めることができる	自分で達成可能で身近な目標を立てることができる		目標設定	目標に向け、取組方法が分かる	目標に向けた取組ができる	活動を振り返り、新しい目標を設定できる				
	選択	2択より選ぶことができる	選択肢より選ぶことができる		選択(決定・責任)	やらなければならないことを理解し、取り組むことができる	選択したことを最後まで責任を持ってやり遂げる	自分の将来について考える(主体的)保護者と話し合って進路を選択できる				
	ふりかえり	教師と一緒に簡単な自己評価をすることができる	自分の活動をふりかえり、目標に対する自己評価をすることができる		肯定的な自己理解	「できた」「まあまあ」「もう少し」などの自己評価を客観的にできる	自己評価をもとに、次にどうすればよいかを考えることができる	活動の場面で振り返りとそれを次に生かすことができる				
キャリアプランニング能力	様々な情報への関心	人の話を聞くことができる	分からないことを質問することができる		情報の収集と活用	身近な人から知りたい情報を得ることができる	本・広告・メディアやパソコン等、様々な方法で情報を得ることができる	得た情報を適切に取捨選択できる				
	社会のきまり	身近な人との約束を守ることができる	家や学校でのきまりを守ることができる		社会のきまり	学校でのきまりをまもることができる	社会にもルールがあることが分かる	社会のルールを守ることができる				
	金銭の扱い	教師と一緒に買い物をする事ができる	お金が必要なことが分かり、決まった額の買い物をして、金銭の扱いに慣れることができる		金銭の管理	金種が分かり、少額で決まった額の買い物ができる	教師と一緒に予算内で選んで買い物ができる	予算内で目的に応じた買い物ができる				
	役割の理解と分担	学級・学年・異年齢集団等、人数や年齢層が異なる集団に参加し、友達と一緒に活動したり作業をしたりすることができる	積極的に様々な集団活動に参加し、作業分担や自分の役割が分かり、自分から取り組んだり役割を果たしたりすることができる		働くことの意味	みんなと一緒に職場体験学習に取り組むことができる	進路学習を通して卒業後は仕事をすることを理解する	自分が利用する店や施設で働く人に興味をもつことができる	「働く」ことを意識し、興味関心を持って職場体験学習に取り組むことができる 課題意識をもって職場体験学習に主体的に取り組むことができる 自分の進路に関心をもち、自分の進路に関心をもつことができる 高等部卒業後の様々な進路について知る			
	習慣形成	教師の働きかけによって次に何をすることが分かり、日課に沿って行動することができる	日常生活でのおよその予定が分かり、見直しをもって行動することができる		習慣形成	次にな何をすることが分かり、できるだけ一人で日課に沿って行動することができる	一週間の予定が分かり、カレンダーや予定表を見て学校行事や家庭の予定等に従って行動することができる	基本的な生活習慣(規則正しい生活・時間管理・休む・健康・清潔等)を身に付けることができる				
	夢や希望	教師と一緒に様々な活動を行い、好きなことや好きなものを見つけすることができる	様々な活動を体験し、自分がしたいことを選ぶことができる		夢や希望	様々な仕事に関心を持つことができる	自分の得意なことをふまえて、将来就きたい仕事を考えることができる					
	生きがい・やりがい	自分が好きな活動を選んで取り組むことができる	自分が好きな活動を選び、進んで取り組むことができる		生きがい・やりがい	好きな活動をきっかけに他の活動にも目を向け、意欲を持って取り組むことができる	活動を最後までやり通すことで、充実感や達成感を感じることができる	様々な活動に興味を持って取り組むことができる				
					進路計画	福祉施設等での見学・体験をとおして、様々な職業があることが分かる	特別支援学校高等部や福祉施設での見学・体験をとおして、将来を考えることができる	学校卒業後の将来を見据え(それにつながる)中学校卒業後の進路を決定できる				

資料2 中学校知的障がい特別支援学級 第1学年 年間指導計画(例)

指導の形態		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
各教科等を合わせた指導	生活単元学習	・中学校生活に慣れよう ・花を育てよう	・体育祭に向けて ・体育祭を振り返って ・稲の栽培 ・花を育てよう	・植物栽培サニールタスと花を育てよう	・校外学習に向けて ・校外学習を振り返って	・防災復興学習へ向けて ・防災復興学習を振り返って ・いろいろな模様	・校外学習に向けて ・校外学習を振り返って	・平面図形のいろいろなデザイン ・秋冬のカレンダーを作ろう ・稲の収穫	・教室を冬のデザインにしよう	・冬の身の回りの現象	・本立てを作ろう	・イースターエッグを作ろう ・部活の先輩に感謝を伝えよう	・部活の先輩に感謝を伝えよう
	作業学習	・発泡スチロール作品の作り方を知ろう	・みんなの名札を作ろう		・名札を完成させプレゼントしよう	・文化祭スローガンを作成しよう			・生徒会スローガンを作成しよう			・カリグラフィーで感謝を伝えるメッセージボードを作成しよう	・カリグラフィーで感謝を伝えるメッセージボードを完成させよう
教科別の指導	国語	・朝のリレー ・国語辞典の使い方	・野原はうたう ・漢字に親しもう	・シンジュン ・ダイコンは大きな根?	・ちょっと立ち止まって ・読書を楽しむ	・夏休みのこと ・大人になれなかった弟たちに	・詩の世界 ・本の中の中学生	・星の花が降るころに	・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラレポートを書こう	・蓬萊の玉の枝「竹取物語」から	・今に生きる言葉 ・「不便」の価値を見つめ直す	・君たちはどう生きるか ・たのしい制約	・少年の日の思い出 ・さくらはなびら
	社会	・地理的分野 ・世界の地域構成 ・日本の地域構成	・歴史的分野 ・歴史のとらえ方 ・身近な地域の歴史	・原始・古代の日本と世界	・原始・古代の日本と世界	・地理的分野 ・世界の様々な地域 ・アジア州	・世界の様々な地域 ・ヨーロッパ州 ・アフリカ州	・歴史的分野 ・中世の日本と世界 ・武家政治	・中世の日本と世界 ・ユーラシアの動きと武家政治の変化	・中世の日本と世界 ・結びつく民衆と下克上の社会	・地理的分野 ・アメリカ州 ・オセアニア州	・歴史的分野 ・近世の日本と世界 ・世界との出会い	・近世の日本と世界 ・天下統一への歩み
	数学	・整数、正負の数 ・分数、少数	・加法、減法 ・時刻と時間	・乗法 ・重さの単位	・除法 ・金銭処理	・文字式 ・量の計算	・文字式 ・割合計算	・方程式 ・四則計算	・方程式 ・表とグラフ	・比例と反比例 ・図形	・立体 ・電卓利用	・データの活用 ・収入と支出	・一年間のまとめ
	理科	・身近な生物の観察 ・生物の特徴と分類	・植物の分類 ・花や野菜を育てる	・動物の分類 ・体の仕組み	・身のまわりの物質とその性質 ・夏の気候と生活	・金属と非金属 ・白い粉末の見分け方 ・気体の性質	・水溶液の性質 ・季節の変化	・光の世界	・音の世界 ・星と月	・力の世界 ・冬の気候と生活 ・水と氷	・身近な地形や岩石 ・雪と氷	・大地の変化 ・自然災害 ・災害への備え	・日本の風土気候と地域の様子
	音楽	・校歌 ・応援歌	・自分の歌声 ・音楽鑑賞	・楽器のいろいろ ・音楽鑑賞	・リズムで楽しむ ・音楽鑑賞	・リコーダーの演奏 ・合唱練習	・リコーダーの演奏 ・郷土芸能	・英語の歌 ・合唱練習	・民謡 ・合唱練習	・アジアの諸民族の音楽	・心の歌	・箏の演奏 ・卒業の歌	・卒業の歌 ・一年間のまとめ
	美術	・絵や彫刻(描く) ・自分や友達の顔	・絵や彫刻(鑑賞)	・デザイン ・文字のフォント	・レタリング ・自分の名前	・レタリング ・自分の名前	・風景画	・風景画	・デザインや工芸	・デザインや工芸 ・紙粘土	・日本の美(鑑賞)	・生活を彩る文様	・生活を彩る文様
	保健体育	・体づくり運動 ・体力測定	・陸上競技 ・集団行動	・球技 ・保健(健康な生活)	・水泳 ・保健(疾病の予防)	・水泳 ・体力測定	・器械運動 ・保健(心身の発達)	・器械運動 ・球技	・球技 ・武道	・武道	・陸上競技	・球技 ・ダンス	・ダンス
	技術・家庭	・材料と加工の技術	・木材と加工の技術 ・金属と加工の技術	・設計	・部品加工 ・組立てと仕上げ	・組立てと仕上げ	・栽培・育成技術	・衣生活の基本 ・衣服の補修	・アップサイクル	・住まいの働き ・住まいの安全	・食事の役割 ・食生活の改善	・栄養素と食品群	・献立作成 ・調理実習
	英語	・自己紹介 ・アルファベット	・友達作り ・数の言い方	・曜日と天気の違い	・日本の文化	・持ち主の尋ね方	・季節・月の名前	・道案内の仕方 ・順番・日付の言い方	・疑問詞のまとめ ・マイヒーローを紹介しよう	・他人紹介 ・絵や写真の紹介 ・話の組み立て方	・過去形	・過去進行形	・手紙の書き方
特別の教科道徳	・サッカーの漫画を描きたい	・「愛情貯金」をはじめませんか	・トマトとメロン ・ばあば	・富士山から変えていく	・花火に込めた平和への願い	・使っても大丈夫?	・震災を乗り越えて	・自然の声を聞く	・バスと赤ちゃん	・役に立つことができるかな(勤労)	・裏庭での出来事	・いつものバイオリン	
総合的な学習の時間	・オリエンテーション	・自治活動 ・体育祭	・キャリア学習 ・高校について学ぶ会	・キャリア学習 ・校外学習	・防災復興学習	・郷土を知る ・文化祭	・ボランティア学習					・防災復興学習	
特別活動	・中学校1年生の見通しをもとう ・体育祭に向けて	・中学校生活の見通しをもとう ・期末テストに向けて	・いろいろな職業 ・働く理由	・地域に生きる	・自分を見つめてみよう ・将来の自分について考えよう	・人とつながろう ・文化祭に向けて	・ユニバーサルデザイン	・学級生活を振り返ろう		・いろいろな生き方 ・多様な進路 ・新入生を迎える会へ向けて	・この一年を振り返ろう		
自立活動	・中学校生活に慣れよう	・制服をたたもう	・自分新聞を作ろう	・挨拶マスターになろう	・神楽を覚えよう		・マイヒーローを紹介しよう	・2学期の振り返りをしよう ・冬休みの過ごし方を考えよう	・冬休みを振り返ろう	・新入生を迎える会へ向けて	・一年間の振り返りをしよう		
育てたい力	人…人間関係・社会形成能力 自…自己理解・自己管理能力 課…課題対応力 キ…キャリアプランニング能力	特別活動 人 人との関わり 場に応じた言動 総合的な学習の時間 キ 生きがい・やりがい	体育祭(総合) 人 集団参加 協力・共同 自 自己理解 特別活動 課 目標設定、振り返り 肯定的な自己評価 キ 習慣形成	特別活動 課 目標設定振り返り 肯定的な自己評価 キ 情報の収集と活用 選択(決定・責任) 高校について学ぶ会(総合) キ 情報の収集と活用 働くことの意義 夢や希望 道徳 人 他者理解	校外学習(総合) 人 人との関わり、集団参加、意思表示 感謝、あいさつ 課 目標設定振り返り 肯定的な自己評価 キ 情報の収集と活用 働くことの意義 夢や希望 特別活動 人 人との関わり	防災復興学習(総合) 課 選択(決定・責任)	特別活動 自 自己理解 キ 働くことの意義	文化祭(総合) 人 集団参加 協力・共同 自 自己理解 ストレスマネジメント 特別活動 人 人との関わり 総合的な学習の時間 人 協力・共同、人との関わり、場に応じた言動	小中連携□□発表会 人 意思表示 特別活動 人 人との関わり 総合的な学習の時間 人 人との関わり	特別活動 課 目標設定 振り返り 肯定的な自己評価 道徳 人 人との関わり	道徳 キ 働くことの意義 生きがい・やりがい	進路講演会 キ 働くことの意義 生きがい・やりがい、進路計画 特別活動 キ 働くことの意義 生きがい・やりがい 課 選択(決定・責任)	3.11集会(総合) 課 選択(決定・責任) 特別活動 課 目標設定 振り返り 肯定的な自己評価 総合的な学習の時間 課 選択(決定・責任)

【引用文献】

- ・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター(2021)「キャリア教育に関する総合的研究第二次報告書」：63
- ・日野文貴・村社弘之・矢動丸博子・的野美穂子・外山千佳・児玉かおり・山田慧美・信時大輝・戸ヶ崎泰子 宮崎大学教育学部紀要（2016）「発達段階に応じた体系的なキャリア教育の試行」:42
- ・日野文貴・外山千佳・矢動丸博子・瀬川大輔・河埜千佳・的野美穂子・水谷泰・黒木弘子・戸ヶ崎泰子 宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター(2018)「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票の改訂」
- ・文部科学省（2021）「障害のある子供の教育支援の手引ー子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けてー」、株式会社ジアース教育新社：120-131
- ・文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説 総則編』：129,130
- ・文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説 特別活動編』、東山書房:122,123
- ・文部科学省（2018）『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編』、開隆堂:26,27

【参考文献】

- ・岩手県教育委員会(2020)『いわてキャリア教育指針ーキャリア教育の推進・充実に向けてー』
- ・岩手県教育委員会(2019)『いわて特別支援教育推進プランー「共に学び、共に育つ教育」の推進ー（2019～2023）』
- ・岩手県立総合教育センター教育支援相談担当（2022）特別支援教育指導資料「特別支援学級経営の手引」
- ・菊地一文（2016）『気になる子のためのキャリア発達支援』「特別支援教育 ONE テーマブック 10」、学事出版

【引用 Web ページ】

- ・文部科学省 中央教育審議会答申（2021）「令和の日本型学校教育」の構築を目指してー全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現ー（答申）」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm（令和4年4月13日閲覧）
- ・文部科学省 中央教育審議会初等中等教育分科会（2012）「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm（令和4年6月7日閲覧）

【参考 Web ページ】

- ・愛知県教育委員会 「特別な支援を必要とする中学生の進路指導リーフレット『未来の扉を開こう』」
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tokubetsushienkyoiku/0000039484.html>（令和4年4月19日閲覧）
- ・岩手県立総合教育センター 教育支援相談担当 手引・ソフト・資料等 「特別支援学校（知的）キャリア教育推進ガイドブック「理解編」「実践・資料編」」
https://www1.iwate-ed.jp/09kyuu/tantou/tokusi/tebikitop_tokusi.html（令和4年5月12日閲覧）
- ・神奈川県立総合教育センター 「生徒の自己理解を促す共感的な対話」
<https://edu-ctr.pen-kanagawa.ed.jp/snavi/soudansnavi/jikorikai24.html>（令和4年8月1日閲覧）
- ・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（2018）「キャリア教育リーフレットシリーズ特別編2 キャリア・パスポートで小・中・高をつなぐ」
https://www.Nier.go.jp/04_kenkyu_annai/pdf/div09-shido_20180605-cp-v02.pdf（令和4年6月13日閲覧）
- ・東京書籍「特別支援教育のトビラ」
<https://tokushi-tobira.jp>（令和4年6月28日閲覧）
- ・独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 知的障害特別支援学級担任のための授業づくりサポートキット すけっと
https://www.nise.go.jp/nc/study/others/disability_list/intellectual/sk-basket（令和4年5月25日閲覧）
- ・東広島市ホームページ 令和元年度教育研究
https://www.city.higashihiroshima.lg.jp/school/saijo_sho/kyoikukenkyu/24350.html（令和4年8月18日閲覧）
- ・文部科学省（2021）「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/154/mext_00644.html（令和4年4月13日閲覧）